

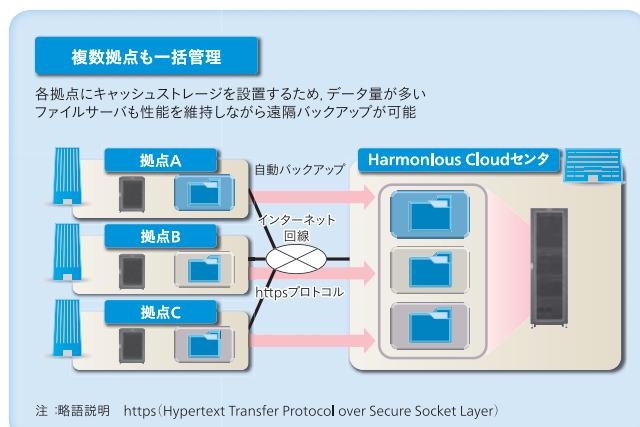
# 高い信頼性で BCP/BCM 対応を強力に支援する 日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」

国境や業種の壁を越えたビジネスの連携が進む今日、自然災害などによる事業の停止が経済活動に及ぼす影響は大きい。

事業継続性の確保が企業にとっての喫緊の課題となる中で、クラウドコンピューティングへの期待が高まっている。

これに応えるため、日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」では、BCP/BCM対応ソリューションを強化した。

その特長とそれを支える技術について、担当者にインタビューした。



## 大震災で変化したニーズ

日立グループは、2009年7月から、高信頼なクラウドコンピューティング環境の導入から運用までを支援する日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」を提供し、企業IT資産の「所有から利用へ」という潮流に応えてきました。このクラウドソリューションに対して、2011年3月の東日本大震災発生以降、BCP (Business Continuity Plan) / BCM (Business Continuity Management) に役立てたいというお客様からのご要望が急増しています。クラウドはそもそも事業継続に適した仕組みであり、自社で遠隔地にデータセンターを構築するよりも、はるかに少ない時間とコストで、災害時のデータ保全と迅速なシステムの復旧を実現します。また、環境に配慮したデータセンターを利用することから、電力供給不足を受けた節電、停電対応の面でも期待されています。

## BCP/BCM対応を強化

高まる期待に応えていくため、2011年6月、高信頼なストレージへのデータ保管やセキュアなクライアント環境の提供、クラウド移行支援、電力抑制効果の「見える化」など、Harmonious CloudのBCP/BCM対応ソリューションの強化を図りました。

データ保管では、お客様の基幹システムデータの二重化を支援するだけでなく、海外においても高く評価されてい

るHitachi Virtual File Platformのファイル仮想化機能を活用し、自動的に日立グループのクラウドサービスの拠点である「Harmonious Cloudセンター」へデータを転送して確実にデータを保全します。日立のデータ保管サービスは、データ復旧の際、必要なファイルから順に復旧させていくことができ、迅速な業務の再開が可能なことも特長の一つです。

また、クライアント環境は、すでに日立グループ内の約7万人が導入・運用しているという世界でも屈指の運用実績を基にした、信頼性の高さが大きな特長です。シンクライアントの接続先はHarmonious Cloudセンターであり、お客様のサイトが被災した場合でも、自宅やサテライトオフィスなどから、情報漏洩(えい)を防ぎながら業務を継続することを可能にします。

## みずからの経験と実績に基づいたソリューション

BCP/BCMは、日立自身にとっても重要な課題であるため、最先端のストレージ技術やクラウドソリューションを活用しながら、さまざまな対策を進めてきました。実際、震災発生後も業務を継続することができ、その経験や実績は、お客様にも必ず役立てていただけると確信しています。今後も、基幹業務システムを支えるにふさわしい信頼性を保つとともに、お客様の業務環境に応じた、導入しやすいクラウドソリューションを拡充していくことで、BCP/BCMを強力に支援していきます。



左から、日立製作所 情報・通信システム社 クラウド事業統括本部 クラウド事業推進部の杉之下広 担当部長、経営戦略室 事業戦略本部 BCP・BCMソリューション推進センタの中田順二 主任技師、RAIDシステム事業部 事業企画本部 事業戦略室の真田明美 室長